

6. 学習展開 (第〇次 第〇時)

どの場面でどんな「数学的な考え方」を育てたいかを書く。

指導者として何を確かめて、次の段階へ進むのかを書く。
 評価の方法や観点を書く。
 指導のねらいに対する評価を書く。

「必要とされるストラテジー・リテラシー」の項目をいれたらなおよい。

学習の過程	子どもの活動	指導上の手立てと留意点	育てたい数学的な考え方と評価
1. 課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 課題または問題 (提示型・設定型・発掘型) ※できるだけ発掘型がよいが、算数科においては設定型が多い。 ～に気付く。～がわかる。 ※場面や情景がわかる。問題がはっきりとわかる。解決の見通しがつく。解決策がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が、子どもたちに対して「する」事を書く。 ・「子どもの活動」と対応させて書く。 ・主要発問をかく。 ・指導のねらいを書く。 ・次の分節へどう盛り上げて進むかという工夫を書く。 ・学習活動を組み立てた意図やねらいを書く。 ・机間指導の視点を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～興味を持つ。 ・～がわかる。
2. 見通しを立て問題を解く。 ※思考の場 自力解決の場	<ul style="list-style-type: none"> ・～について調べる。～について考える。～をする。 ※助言・支援・個別指導 ※個別化、個性化、自己学習力 ・予想される子どもの考えや解決方法を書く。 ・予想される子どものつまずきを書く。 ・ワークシートを用意するのもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想したつまずきの指導の手立てを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～積極的に取り組む。 ・～工夫できる。
3. 学びあう。 ※広める・高める 練り上げる ※多様な考えの発表 ※話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ・～について発表する。～について話し合う。 ・予想される話し合い内容について書く。 ※学びあうことで子どもたちの思考が一段と高められなくてはいけない。 ※まとめるとき、個々の考えを大切に、切り捨てるということをしてはいけない。 (一番よいのは?一番わかりやすいのは?等) ※多様な考えが出たらどうまとめるか前もって計画を立てておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ子どもたちの手で授業を進行する。指導者は、「助言」「補足説明」「まとめの方向性」を示す。 ・全員通過すべき事柄とそのチェックポイントを書く。(情意面・学習内容) ・学ばせるべき事柄と考えさせ育てる事柄とはっきり区別して書く。 ※～教える。～助言を与える。～指示する。 ～支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～説明ができる。 ・～がわかる。 <div data-bbox="1854 986 2154 1056" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価する内容は、前もって決めておく。 </div>
4. まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにまとめるか予想を書く。 ※共通の考え・一般化・統合・分類整理・公式化 等 ・まとめ：結果とそれにいたるまでの考え方(原理)をまとめる。 ※「今日は、〇〇という問題を△△という考え方で解いて、結果が××になった。」とまとめる。 		「数学的な考え方」に支えられたものとして <ul style="list-style-type: none"> ・～がわかる。 ・～ができる。